

体や心の「言葉にならない声」を聴く 相手を理解しようとし続ける姿勢、それが「癒し」になる！

J H A 日本ハンドリフレクソロジー協会 / ハンドリフレクソロジー専門学院
運営：株式会社 Z A C 研修・コンサルティング研修実績



鹿児島県社協老人福祉施設協議会

吉満 誠 様

導入法人紹介

【法人名】

鹿児島県社協老人福祉施設協議会

【法人概要】

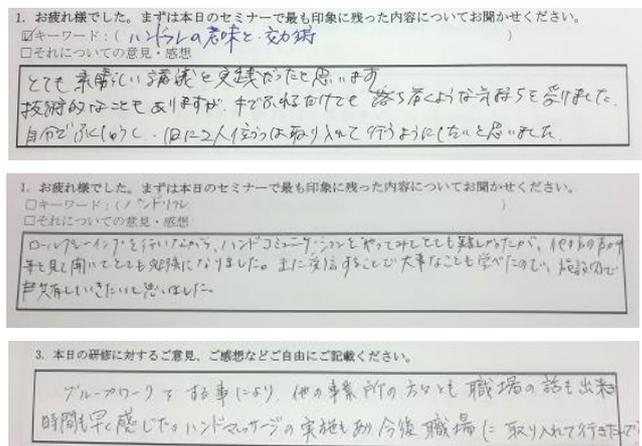
鹿児島県内の特別養護老人ホーム
養護老人ホーム、軽費老人ホーム
ケアハウス、デイサービスセンター
通所介護事業所による高齢者福祉サービスの
向上を図ることを目的として活動しております。

ハンドリフレクソロジーは、体や心の「言葉にならない声」を聴くことができる

「癒し」これが今回の研修テーマのひとつでした。高齢者施設では認知症の利用者さまが多く、今どうありたいのか、何をしたいのかを理解し、認知症の人の感情・行動の意味などを思い測り、ケア提供者は身体言語を活用して表現します。ハンドリフレクソロジーは“体や心の言葉 にならない声”を聴くことができると知り、これなら認知症のように言葉によるコミュニケーションが難しい方との架け橋に出来ると思い、依頼することにしました。

「癒し」は結果で、そうなれるように考え・取り組む「過程」が大事だと気づきました

当日は私も担当者として研修に参加したのですが、「癒し」というのは結果だと気づかされました。研修開始時は参加されるみなさんが非常に意欲的で「癒したい」、ということを懸命に考えておられました。しかし、コミュニケーションのワークを織り交ぜながら手技を学び「ありのままを受け止める」「あるがままを受け止める」結果、「癒し」という状態を作り出せるのだと気づかされました。研修参加者はハンドリフレ研修が進むにつれ、不安や苦しみ、孤独感などを和らげる関わりを学びながら、いつの間にか自分自身も穏やかな表情に変化していくのが非常に印象的でした。



手から伝わる・伝えられる事の可能性

誰かに触れられている、言葉に出来ず胸に秘めていることに手を通して気づいてもらうことができる。その瞬間の安心感とうれしさで、関係性が一気に花開くのだと感じていただけたのではないかと考えています。研修終了後に「技術だけではなく、仕事への姿勢で大切なことに気付かされた気がします」という感想をいただきました！

